

学校の意義の本質観取 —「自由の相互承認」の原理に基づく反省的考察—

令和4年度入学 熊本大学大学院 教育学研究科
教職実践開発専攻 学校教育実践高度化コース
228-A9701 大石 健斗

研究報告書要旨

本実践報告書の目的は、本質観取(哲学対話)の実践について反省的考察をおこなうことである。具体的には、A中学校の生徒たちとおこなった本質観取(哲学対話)において見出された①学校の意義の本質定義、②本実践の意義と課題の両者を公教育の本質である「自由の相互承認」の原理および本質観取の意義に基づいて反省的考察をおこなった。

結論から先に述べると、生徒たちは学校の意義の本質を「多様性のなかで“響き合い”を通して成長すること」と定義した。第3章で詳述したが、この本質定義は公教育の本質である「自由の相互承認」の原理の核心に迫ったものであるといえる。加えて、本質観取における生徒たちの発言およびリフレクションも公教育の本質に迫るものであり、そして本質観取をするプロセスのなかで自己了解・他者了解・共通了解の深まりもみてとることができた。

今後の課題としては、本質観取における問題意識を明確にする(何のため・誰に向けての本質観取であるかを共有する)ことがあげられる。加えて、本実践では学校の意義の本質を見出したことから、生徒たちが自らの手で学校をつくる機会を保障し、本質観取が対話のテーブルだけに留まるのではなく日常の学校生活において役立つと実感できるような環境を“おとな”(教員)が整えることがあげられる。

本実践報告書の構成は以下の通りである。

第1章においては、そもそも本質観取とは何かについて明らかにしたうえで、その手順について「幸せ」の本質観取を例に述べた。加えて、本質観取の意義について、「人それぞれ」問題および民主主義に焦点を当てながらまとめた。

第2章では、A中学校の生徒たちとおこなった学校の意義の本質観取(全2時間)について、生徒の発言およびリフレクションを中心にとりまとめた。

第3章においては、第2章でとりまとめた生徒たちの本質観取における発言およびリフレクションを中心に生徒たちが見出した①学校の意義の本質定義、②本実践の意義と課題の両者について、公教育の本質である「自由の相互承認」の原理および本質観取の意義に基づいて反省的考察をおこなった。

そのうえで、生徒たちの見出した学校の意義の本質定義は公教育の本質に迫るのがみられ、加えて本質観取を通して、自己了解・他者了解・共通了解の深まりをみてとることができた。